

陳情等に対する常任委員会報告

総務文教常任委員長 森 恵子

総務文教常任委員会に付託された3件の審査結果は次のとおりです。

受付番号65号「地方財政の充実・強化を求める意見書採択について」↓**(全会一致)採択**
○地方分権が叫ばれている中で依然として税源移譲は行われず、地方自治体の財政運営は非常に困難になって来ています。

地方分権の理念を実現するためには、より住民に身近なところで政策や税金の使途決定、住民の意向に沿った自治体運営が求められます。

意見書の要点

(1)医療、福祉、環境、ライフラインなど地域の公共サービス水準の確保と地方分権推進にむけて、国・地方の税収配分5:5を実現する税源移譲、地方交付税機能の強化により地方財源の充実強化をはかること。

(2)自治体間の財政力格差は地方間の財政調整によること

なく、地方交付税の財源保障機能・財政調整機能の強化により是正をはかること。

(3)地方自治体の意見を十分に踏まえた対処を行うこと。受付番号67号「JR不採用問題の早期全面解決を求める意見書に関する請願」↓**継続審査**

○1987年(昭和62年)4月1日、国鉄がJRに移行する際、北海道・九州を中心に国労などに所属していた約8,000名の国鉄職員がJRを不採用となりました。そして国鉄精算事業団に入られた1,047名が3年後に解雇されました。全国各地の労働委員会や中央労働委員会は相次いで救済命令を出しましたが、2003年12月22日に最高裁は救済命令を取り消す判決を言い渡しています。

国連の専門機関ILO(国際労働機関)は、1999年以来7回にわたり、早期解決を促す「勧告」を行っていますが、依然として具体的な協議は進展していません。その

ような状況下、日本全国に及ぶ地方議会で、JR不採用問題の早期解決を求める意見書採択が広がっています。

和水町議会においても今後慎重な審議を行っていきます。受付番号72号「和水町歴史資料館(仮称)建設を交通便利の地に計画し、実現を急ぐこと等を求める請願」↓**(全会一致)採択**

○明治6年1月に発掘された国指定史跡「江田船山古墳」からは多数の副葬品等が出土し、現在は国宝として東京国立博物館に保管・展示されています。

江田船山古墳公園一帯にはこれまで県も含め、30数億円が投じられてきたが、公園内にある歴史民俗資料館の展示品は開館当時のままで、建物は老朽化し、人の目に付きにくい場所にあります。入口には「江田船山古墳」の案内板さえないことから、全国ブランドとして広く伝える役割りを果たしているとは言えません。加えて「菊水町史」編纂で収集した多くの資料を今後

どう活用するかが大きな課題です。

平成23年3月には九州新幹線の全線開業が迫っている今日、新幹線駅や九州自動車道菊水インターチェンジ等の利便性を活かし、船山古墳公園一帯を和水町の文化拠点として再整備する必要があると判断し採択となりました。

なお、旧三加和地域内にも貴重な国指定の史跡、遺跡があることから、資料館建設等にあたっては総合的に検討して進められるよう、町執行部に要望致します。

請願書の要点

(1)和水町歴史資料館(仮称)を旧菊水町内の交通便利の地に建設する計画を急ぎ立てること。

(2)本来、和水町内にあるべき歴史遺産で、他の自治体にあるものがある(県道江田交差点近くにあった石製の道標、鷺原から出土した「銅板基誌」関連の土器破片)。

その他の資料も含めて再調査し、早急に返還を求める作業に着手すること。

建設経済常任委員長 北原 芳史

本定例会初日、建設経済常任委員会に付託されました、受付番号「74号」「岩尻く久米野間学童通学道路の拡張及び整備について」の要望書について、建設課長の出席を求め、委員5名の出席のもと、協議の上、現地確認をした結果、学童の登下校の安全を確保し、狭小道路ゆえに度々発生している事故を防ぐ為にも委員会では、「採択」すべきものと決定いたしました。

続いて、受付番号81号「森林・林業・木材産業施策の積極的な展開を求める」意見書の議決について(依頼)について報告いたします。

地球温暖化が深刻な環境問題となっている中で、グローバル化する森林の役割に対し、環境資源としての森林に期待が寄せられており安全で安心できる国民の暮らしを守るためにも、重要な役割を果たす水源林や森林の整備、林業・木材産業の振興と山村の活性化に寄与する観点から『採択』すべきと委員会で決定いたしましたので報告します。

小中学校統廃合について

町長 表明

坂梨町長は、6月定例議会最終日の18日、菊水・三加和両地区の小・中学校を統合して、各地域に1校ずつとする小・中学校一貫教育を導入することを表明しました。

表明の全貌は、次のとおりです。

合併3年目を迎えるにあたり、合併前より菊水地域において幼・保一元化(特区)をもって『菊水ひまわり園』が運営されております。そのことにもない、小学校の統合問題が議論されてまいりました。合併後も更に町議会において『和水平小・中学校一貫教育に関する調査特別委員会』が設置され、調査研究がなされました。また、町教育委員会から『学校規模等適正化審議会』に諮問されました。更に、学校統合問題検討委員会(各学校代表6名)、また保護者アンケート・町民アンケート調査等各方面から多くの

意見を求めて、教育環境の今後の方針について検討してまいりました。

〈基本方針〉

- 一、各々、菊水地区(中学校1・小学校4校)、三加和地区(中学校1・小学校3校)
- 一、集団の中で育む教育『複式学級を解消する』
- 一、学校規模の適正化を図る『小学校を統合する』
- 一、児童の発達段階に応じた教育『小中一貫教育の導入』

* 町議会において『菊水地区の小中学校統合を早急に進め三加和地区においては、町民との話し合いをし、理解を得ながら同時に小・中学校一貫教育に向けて進める』との報告をいただいています。以上のことから、様々な背景の中、社会教育施設(和水町総合グラウンド・和水町民体育館・ふれあい会館・弓道場)の整備がされた番城グラウンド周辺に新たに統合する学校を建設し、小中一貫校とすることが、将

来を担う子ども達の素晴らしい教育環境の整備することと考える。

よって、町民グラウンドを学校グラウンドと併用してまいります。

なお、小・中学校一貫校の整備には、多額の事業費が伴うことから、合併特例債の期限となっております平成27年度までに、文部科学省の中教審、及び県教委の動向を見ながら、菊水地区はもとより、三加和地区と共に、慎重かつ早期に整備していくことが使命と判断する。

和水平議会議員定数検討委員会の設置について

市町村議会の議員の定数については、従来人口規模に応じて地方自治法に『法定数』が規定されていましたが、分権改革の一環として、地方議会の組織に関する自己決定権を尊重する観点から、法定定数制度が改められ、それぞれの自治体の条例で定める条例定数制度となっております。そこで、和水平では、合併

を機に法定定数(人口1万以上2万未満の町村)22人から6名減じて16名とし、任期中はこれを変更しないこととしていますが、現在町民の間には、さまざまな意見があるために、和水平議会では、去る5月29日『和水平議会議員定数検討委員会』(委員長、杉村幸敏氏)を設置し、12月議会までに議論を尽くし、今後の方向性を決めることにしています。

和水平道路整備推進委員会の活動報告について

和水平道路整備推進委員会が、さる2月24日①三加和地区と役場本庁を結ぶ道路網整備、②安全安心確保を図るため、江栗地区の冠水対策等を推進するため、町執行部と連携し関係機関への協力体制を構築して関係町民の理解と協力意識高揚を目的として「和水平道路整備推進委員会(会長福山精一氏) 構成員(関係区長、議会議員全員)が発足しました。

3月3日福島玉名振興局長、

関係部課長の出席を頂き要望集会を開催し、地区の状況等を詳細に説明理解を深めて頂きました。

6月3日、平成20年度総会を開催、本年度活動計画案を決定しました。

6月11日、会長・副会長により坂梨町長・内野県議随行的のもと福島玉名振興局長に要望書(同意書添付)を提出し国交省菊池川河川事務所長への要望挨拶を行いました。(同日和水平町長・議会議長宛要望書提出)

6月20日、江栗地区冠水対策委員会による芦北町の排水施設を視察しました。

6月23日、福岡県立花町道路整備促進期成会(会長・朽網議会議長)と道路整備促進会議を立花町の呼びかけにより開催し、今後和水平・立花両町協力して、道路整備推進委員会(仮称)を設立し目的達成に向け相互協力して対応することを確認しました。

以上今日迄の活動状況を報告します。